

羊蹄山麓から

はじめまして！



高木農園 高木 智美

はじめまして！

後志管内、京極町で畑作経営をしております高木智美です。就農一七年になりました。ただの嫁です。

農業を通じて仲間との出会い、交流が拡がり、経営に活かしていきたいと思っています。これから一年間、拙い文章ではありますが、自分らしく伝えたいと思います。どうぞよろしく願います！

◆隣の農家のお兄ちゃんな話

そのお兄ちゃんと結婚をして、一〇年が経ちました。朝カーテンを開けると、実家が見えます。「おじちゃん、おばちゃん」と呼んでいたのを「お義父さん、お義母さん」に直すまで多少の時間が掛かりました。ひと昔は同地域での近所婚もよく聞いた話ですが、所属していたフレッシュミズの奥様達も町外、そして道外から来た人ばかりです。親同士の付き合いが長く良好なことは大きなメリットの二つ。しかしデ

メリットも大きい。

現在、二人の息子に恵まれて、一年ごとに成長が感じられ楽しみます。

◆経営移譲な話

二〇〇八年元旦。お義母さんから前年の家計簿、農業経費ノート、通帳、印鑑を渡されました。覚悟を決めていたとはいえ、妊娠中だった時期でもあり不安や焦りが大きかったことを覚えています。しかし、今考えると…義父母はしっかり準備をしてくれて、スパッと渡してくれたものだと思います。自分達が同じようにその時期が来た時に準備と移譲を区切り良くできるか。まだまだそこまで想像がつかみませんが、私達が経営ができると思うてのことだと嬉しく思いました。

…まっ。初年度からできるわけでもなく…やはり義父母の経験のある手助けは数年続きました。

私達夫婦でもその経験の差を早く埋めよ

高木 智美 (たかぎ ともみ)

- ・昭和53年生まれ 後志管内京極町出身
- ・家族構成は夫と夫の両親、子供2人の6人家族
- ・平成12年実家で就農、平成18年結婚、平成20年両親から経営移譲を受ける
- ・羊蹄山麓の京極町で畑作中心に32haの経営
- ・北海道若手女性農業者団体「LINKS」、農業女子プロジェクトなどに参加
- ・平成28年から個人で栽培、販売している白小豆が商品化。「白小豆どら焼き」として、まずは地元で愛される商品になるように、コンセプトは「地恵地楽：ちけいちらく」（地元の恵みを地元で楽しむ）です！



うと、スキルアップするために「栽培技術」「経営向上」「仲間作り」と自ら動きまです。やっと、栽培や農作業とそして一年の流れを自分達のモノにしてきた実感が湧いてきたような感じがしています。そして九年目の今年。冬の間によくよく話し合いをし、計画を立てております。

私は、基本的に土に触って農作業するのが大好きです。これは自分にとっても、高木農園にとっても大きな強みです。

◆ 農協との関わりな話

平成九年三月、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町の八J Aが合併し、J Aよつていが誕生しました。私はその中の京極支部に属しているというのが正しいのでしょうか。私自身も正組合員になっております。昨年度でフレッシュミズを勇退し女性部に入りました。よつてい農協は、ブロック化になり、三つのブロックに分かれ業務が各

主要支部に集積されました。それから一年経ち、ひとまず組合員も慣れてきた頃ではないでしょうか。

高木農園での生産物で大きく変化があったのは、にんじん共選施設が新しくなったことです。昨年からは新施設が稼働し、一日最大二七〇tの出荷、そして真空予冷機を新しく導入したことで、販路がこれまでは関東の市場までであったのが関西まで拡大しました。農園での作付け面積も昨年は一・五倍に拡大しました。最初は不安がありました。新施設ができる度にのしかかる施設利用料金。よつてい農協は「応益負担」なので。合併農協、単協に限らずも同じようなのかしら？

二〇一六年は素直に喜べはしませんが稀にみる出来事が起きたために、初年度の施設利用料金は食卓に上がらず。



—京極町で女性限定の

トラクター講習会がしたい—

さて、ただの嫁。平成二五年十一月に農水省が立ち上げた「農業女子プロジェクト」に平成二七年から参加しております。「農業女子プロジェクト」は、女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業の技術・ノウハウ・アイデアなどと結びつけ、新たな商品やサービス、情報を創造し、社会に広く発信していくためのプロジェクトです（抜粋）。

平成二七年、井関農機株式会社様が企画した農業女子トラクターの開発プロジェクトに参加。その中で、各地域で女性限定トラクター講習会が開かれました。私も参加。この「女性限定トラクター講習会を京極町でも行えないだろうか？」まずは北海道イセキ倶知安営業所に話を持っていきました。すると、「展示会が七月にあるのでそこでやってみましょう」と。

…展示会…京極町の女性農業者だけでは勿体無い…はて。どうすんべ…

主人にも相談すると「そついうのは農協に相談するべき。ちゃんと起案書作って」と。しっかりした起案書までは作成できませんでした。当時の営農課長に相談をしに。申込用紙を作成し、JAよつてい全域の組合員に向けてFAXを流してもらいました。私の考えでは農業従事している女性全員にこの講習会を周知して貰いたいと思っていました。予想以上の参加人数でした。JAよつてい管内に収まらず、共和町、遠くは深川市からの参加もありまして合計四一名。私自身、そして北海道イセキ様の方も驚きです。次の行動として、講習会で使うトラクターの台数を増やし、なるべく待ち時間を少なく多くの参加者が体験できるようにすること。

段々大きなイベントになってきたことで不安要素も。

これは…保険を掛けた方がいいよね…は



て。どうすんべ…

今度は共済に相談を。トラクターという危険度の高い一日のイベントに連れて、納得のいく補償内容の保険は、最初は見つからず。民間の保険会社に問い合わせしましたが、掛け金が高く団体名も構成員名簿も必要と。諦めて参加者の皆さんに向けて「保険はかけていらないので事故などは自身の責任になります」という説明文を作成しておりました。農協の共済職員の方は、その間に色々調べて頂いていたようで、保険が見つかった知らせを頂いた時に本当に心から感謝しました！嬉しくて何度飛び跳ねたことか（笑）。「保険をかけたので、当日は安心してお越し下さい」という告知ができたのは、農協職員のお陰です。

その他にもよつてい農協本所からは「食事をごちうで用意しましょうか？」という気遣いも（お断り致しましたが）、講習会当日も職員の方も多く見学に来られ手伝ってくれたり、温かい言葉を掛けてくださり

ました。この時の感謝の気持ちはこれからも私の中でずっと在り続けます。

もちろん、女性限定トラクター講習会を開催して頂いた北海道イセキ様には大きな感謝をしております。女性同士の交流も生まれたことは、この先も繋がるきっかけになったと思います。

— 今度は規格外にんじんの話が —

そしてあれから二年。

今度は繊維専門商社から規格外にんじんを染料とした商品企画の話が来まして、まずはサンプルテストをしてからではありませんが、そこから先はまとまった量の規格外にんじんが欲しいという内容でした。

すぐに？…春掘りにんじんは生産してないぞ…はて。どうすんべ…

京極支所の販売課長に相談に行きまして、春掘りにんじんの今年度の稼働は三月二日からで、そこで出る規格外を買い取り、サンプルテストに使用しているという話に



なりました。

何度も伝えませんが、正組合員なっているとはいえ、私はただの経営者の嫁。時間を作って話を聞いてくださり、これだけでも本当にありがたいのに要望にも応えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいなのです。

少し前ににんじんの共選施設職員と飲みながら話をしました。

「にんじんの出荷調整は決まっているものの、生育は生産者の努力をしても予想以上に早かったり遅かったりする上で、そのズシを受け入れて出荷できるようにするのが新施設の仕事」だと。「効率重視かもしれないけれど、働いている個々の職員が責任を持って仕事してます」とも。組合員の為に努力していると、話を聞いて安心を感じました。こんな風に想いを持っている職員がいて嬉しくなります。

だから、私自身も農協に協力していこうと素直に思えます。

生産者、農協職員、施設のパートさん、

関わる全ての人が働いていて幸せを感じるようになればいいなあ。

追記 ▼▼▼▼

「ただの嫁」という表現は相応しくないというご指摘を受けました。私としては、経営者の嫁さんでもこうやって相談に乗って頂ける農協なので、他の女性農業者も身近に感じて欲しいという意味を込めてでした。

しかし、私自身も女性部に所属したり、主人も生産組合や青年部活動をしていましたので、農協は相談に応じてくれたと思い直しました。自身が書くものなんですけど、協力している組合員には、きちんと応じてくれるということですね。

次に原稿を書く時には、この規格外にんじんでの商品企画の続きが良い結果になっていればいいですね。

それでは、春の播種作業に向けて家族と共に楽しんで頑張りたいと思います！